
最終更新日 : 2009/04/16

TLVマニュアル (1.0rc対応)

名古屋大学 大学院情報科学研究科
附属組込みシステム研究センター

はじめに

- ・本マニュアルは、TLVの基本的な使い方及び、TOPPERS/ASPカーネルまたは、TOPPERS/FMPカーネルでTLVで可視化するためのログ取得方法について解説している
- ・ログの標準形式への変換ルールに関しては、`TLV_convert_rules.ppt` を参照のこと。
- ・ログの可視化のための可視化変換ルールについては、`TLV_visualize_rules.ppt` を参照のこと。

目次

- ・ファイル一覧
- ・実行環境
- ・TOPPERS/ASPカーネルとTOPPERS/FMPカーネルのトレースログの取得
- ・機能紹介

ファイル一覧

TLVパッケージのファイル構成

フォルダ名	ファイル名	説明	フォルダ名	ファイル名	説明
	README.txt TraceLogVisualizer.exe	TLVの簡単な紹介 TLVの本体	sampleFiles/	asp/ full.log asp.res asp.tlv full.log full.res full.tlv	TOPPERS/ASPカーネルのトレースログのサンプル
doc/	TLV.pdf TLV_convert_rules.pdf TLV_visualize_rules.pdf	TLV本体のマニュアル 変換ルールのマニュアル 可視化ルールのマニュアル	fmp/	fmp.log fmp.res fmp.tlv	TOPPERS/FMPカーネルのトレースログのサンプル
convertRules/	asp.cnv fmp.cnv tecs.cnv	TOPPERS/ASPカーネルの変換ルール TOPPERS/FMPカーネルの変換ルール TECSの変換ルール	tecs/	tecs.log tecs.res tecs.tlv	TECSのトレースログのサンプル
resourceHeaders/	asp.resh fmp.resh tecs.resh	TOPPERS/ASPカーネルのリソースファイル TOPPERS/FMPカーネルのリソースファイル TECSのリソースファイル	logtrace/	asp/ kernel_fncode.h tlv.tf trace_config.c trace_config.h trace_dump.c	TOPPERS/ASPカーネルのログトレースモジュール
visualizeRules/	asp_rules.viz asp_shapes.viz fmp_rules.viz fmp_shapes.viz tecs.viz toppers_rules.viz toppers_shapes.viz	TOPPERS/ASPカーネルの可視化ルール TOPPERS/ASPカーネルの図形定義 TOPPERS/FMPカーネルの可視化ルール TOPPERS/FMPカーネルの図形定義 TECSの可視化ルール TOPPERS共通の可視化ルール TOPPERS共通の図形定義	fmp/	kernel_fncode.h tlv.tf trace_config.c trace_config.h trace_dump.c	TOPPERS/FMPカーネルのログトレースモジュール

実行環境

実行環境

TLV実行環境

- ・WindowsXP / Vista
- ・Microsoft .NET Framework 3.5 をインストールすること

ログ取得対象

- ・TOPPERS/ASPカーネル 1.3.2/1.3.1のトレースログ
- ・TOPPRES/FMPカーネル 0.B.0 のトレースログ
- ・TECSのログ

TOPPERS/ASPカーネルとTOPPERS/FMPカーネルのトレースログの取得

TOPPERS/ASPカーネルのトレースログの取得

- ・TLVパッケージのlogtrace/asp 以下のファイルをカーネルの asp/arch/logtrace に置く。
- ・asp/kernel/kernel.tf の最後に以下を追加。

```
1012行目 : $INCLUDE"arch/logtrace/tlv.tf"$
```

- ・対象プログラムのMakefileを編集してトレースログを有効にする。

```
92行目 : ENABLE_TRACE = true
```

TOPPERS/ASPカーネルのトレースログの取得

- asp/doc/user.txt の 10.3 トレースログ記録のサンプルコードの使用方法を参照して、ログの取得と出力を行う
- トレースログ記録の使用方法の一例として、システム起動時にトレースログの記録を開始し、システム終了時に記録したトレースログをダンプするためには、システムコンフィギュレーションファイル(.cfg)に次のような記述を追加する。

```
#include "logtrace/trace_config.h"
ATT_INI({ TA_NULL, TRACE_AUTOSTOP, trace_initialize });
ATT_TER({ TA_NULL, target_fput_log, trace_dump });
```

- ここで、初期化ルーチン (trace_initialize) への引数は、初期化直後のトレースログの動作モードを指定するものである。指定できる動作モードについては、arch/logtrace/trace_config.h中のコメントに説明がある。
- 終了処理ルーチン (trace_dump) は、記録されたトレースログをターゲット依存の低レベル出力機能 (target_fput_log) を利用してダンプするためのものである。トレースログを別の方で取り出す場合には、終了処理ルーチンを登録する必要はない。

TOPPERS/ASPカーネルのトレースログの取得

trace_config.h をログを取得する環境に合わせて変更する

- ・バッファサイズ
 - ・TCNT_TRACE_BUFFER
- ・時刻取得ルーチン
 - ・ターゲット依存で時刻を取得したい場合は、TRACE_GET_TIM に定義する
- ・取得するログトレース
 - ・取得したいログトレース以外はコメントアウトする
 - ・例) loc_cpuのログを取らない場合は、LOG_LOC_CPU_ENTER() とLOG_LOC_CPU_LEAVE(ercd) のマクロをコメントアウトする.

```
//#defune LOG_LOC_CPU_ENTER()  
//#defune LOG_LOC_CPU_LEAVE(ercd)
```

TOPPERS/ASPカーネルのトレースログの取得

各状態表示のための必須のログトレース

- ・タスクの状態表示
 - ・LOG_TSKSTAT(p_tcb)
- ・ハンドラの実行表示
 - ・LOG_INH_ENTER(inhno)/LOG_INH_LEAVE(inhno),
LOG_ISR_ENTER(intno)/LOG_ISR_LEAVE(intno),
LOG_CYC_ENTER(p_cyccb)/LOG_CYC_LEAVE(p_cyccb),
LOG_ALM_ENTER(p_almcb)/LOG_ALM_LEAVE(p_almcb),
LOG_EXC_ENTER(excno)/LOG_EXC_LEAVE(excno),
LOG_TEX_ENTER(texptn)/LOG_TEX_LEAVE(texptn)
- ・システムコール表示
 - ・有効にしたログトレースが表示される

TOPPERS/FMPカーネルのトレースログの取得

- ・TLVパッケージのlogtrace/fmp 以下のファイルをカーネルの fmp/arch/logtrace に置く。
- ・fmp/kernel/kernel.tf の最後に以下を追加。

•1589行目 : \$INCLUDE"arch/logtrace/tlv.tf"\$

- ・対象プログラムのMakefileを編集してトレースログを有効にする。

•92行目 : ENABLE_TRACE = true

TOPPERS/FMPカーネルのトレースログの取得

- fmp/doc/user.txt の 10.3 トレースログ記録のサンプルコードの使用方法を参照して、ログの取得と出力を行う
- トレースログ記録の使用方法の一例として、システム起動時にトレースログの記録を開始し、システム終了時に記録したトレースログをダンプするためには、システムコンフィギュレーションファイル(.cfg)に次のような記述を追加する。

```
#include "logtrace/trace_config.h"
ATT_INI({ TA_NULL, TRACE_AUTOSTOP, trace_initialize });
ATT_TER({ TA_NULL, target_fput_log, trace_dump });
```

- ここで、初期化ルーチン (trace_initialize) への引数は、初期化直後のトレースログの動作モードを指定するものである。指定できる動作モードについては、arch/logtrace/trace_config.h中のコメントに説明がある。
- 終了処理ルーチン (trace_dump) は、記録されたトレースログをターゲット依存の低レベル出力機能 (target_fput_log) を利用してダンプするためのものである。トレースログを別の方法で取り出す場合には、終了処理ルーチンを登録する必要はない。

TOPPERS/FMPカーネルのトレースログの取得

trace_config.h をログを取得する環境に合わせて変更する

- ・バッファサイズ
 - ・TCNT_TRACE_BUFFER
- ・時刻取得ルーチン
 - ・ターゲット依存で時刻を取得したい場合は、TRACE_GET_TIM に定義する
- ・取得するログトレース
 - ・取得したいログトレース以外はコメントアウトする
 - ・例) loc_cpuのログを取らない場合は、LOG_LOC_CPU_ENTER() と LOG_LOC_CPU_LEAVE(ercd) のマクロをコメントアウトする.

```
//#defune LOG_LOC_CPU_ENTER()  
//#defune LOG_LOC_CPU_LEAVE(ercd)
```

TOPPERS/FMPカーネルのトレースログの取得

各状態表示のための必須のログトレース

- ・タスクの状態表示
 - ・LOG_TSKSTAT(p_tcb)
- ・ハンドラの実行表示
 - ・LOG_INH_ENTER(inhno)/LOG_INH_LEAVE(inhno),
LOG_ISR_ENTER(intno)/LOG_ISR_LEAVE(intno),
LOG_CYC_ENTER(p_cyccb)/LOG_CYC_LEAVE(p_cyccb),
LOG_ALM_ENTER(p_almcb)/LOG_ALM_LEAVE(p_almcb),
LOG_EXC_ENTER(excno)/LOG_EXC_LEAVE(excno),
LOG_TEX_ENTER(texptn)/LOG_TEX_LEAVE(texptn)
- ・システムコール表示
 - ・有効にしたログトレースが表示される

TLVへの入力ファイル

- ・ TLVへの入力ファイルは、以下の二つであり、リソースファイルは、アプリケーションのビルド時に、トレースログファイルはアプリケーションの実行後に作成される
- ・ リソースファイル (kernel.res)
 - ・ アプリケーションをビルドすると、コンフィギュレーターにより、ビルドディレクトリに生成される。
- ・ トレースログファイル (xxx.log)
 - ・ トレースログの出力をユーザーがファイルに保存する。

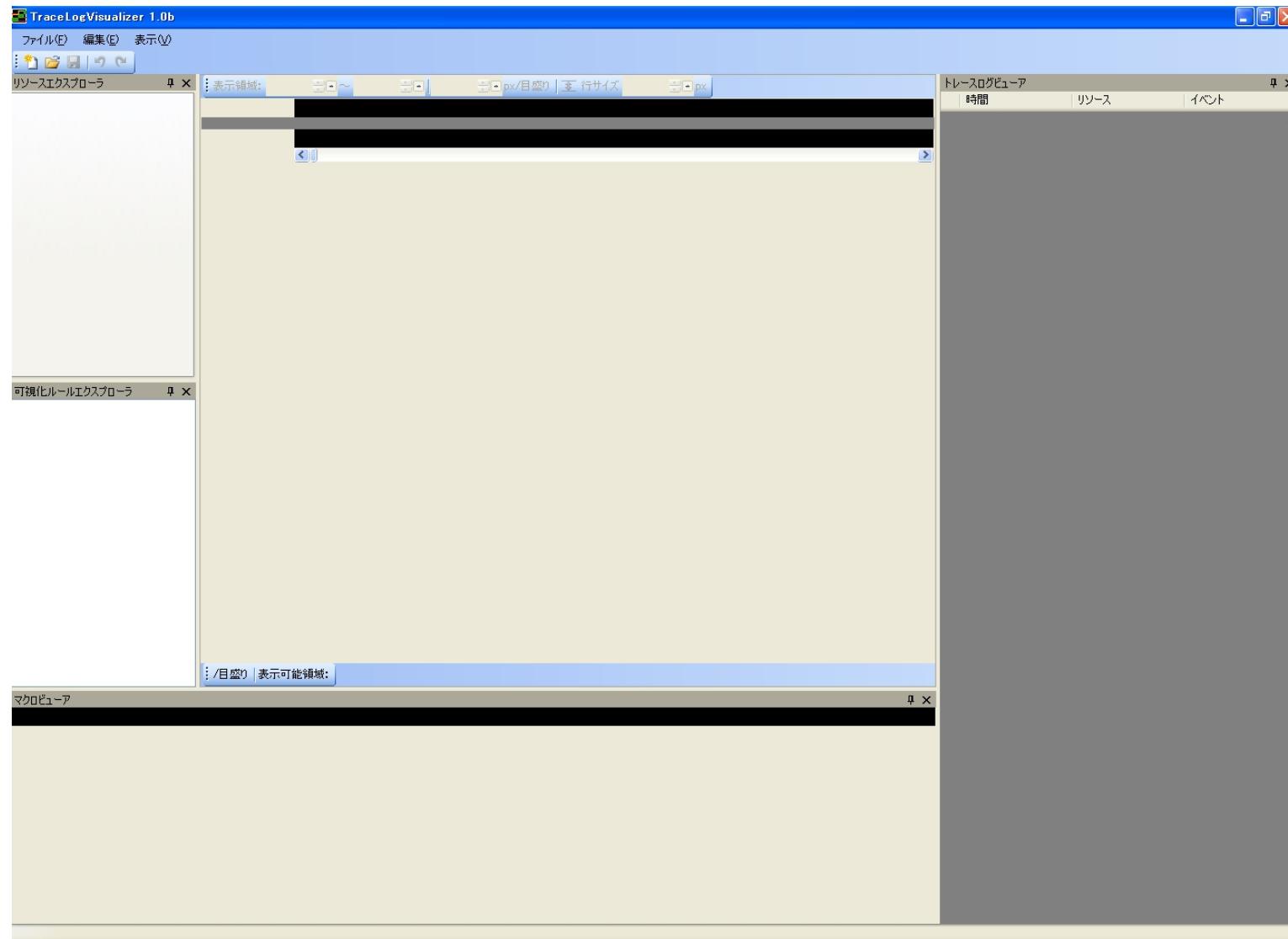
機能紹介

機能紹介

- sampleフォルダに入っているTOPPERS/ASPカーネルのリソースファイルとログファイルを用いて、TLVの機能を紹介する。

TLV実行

TLV初期画面

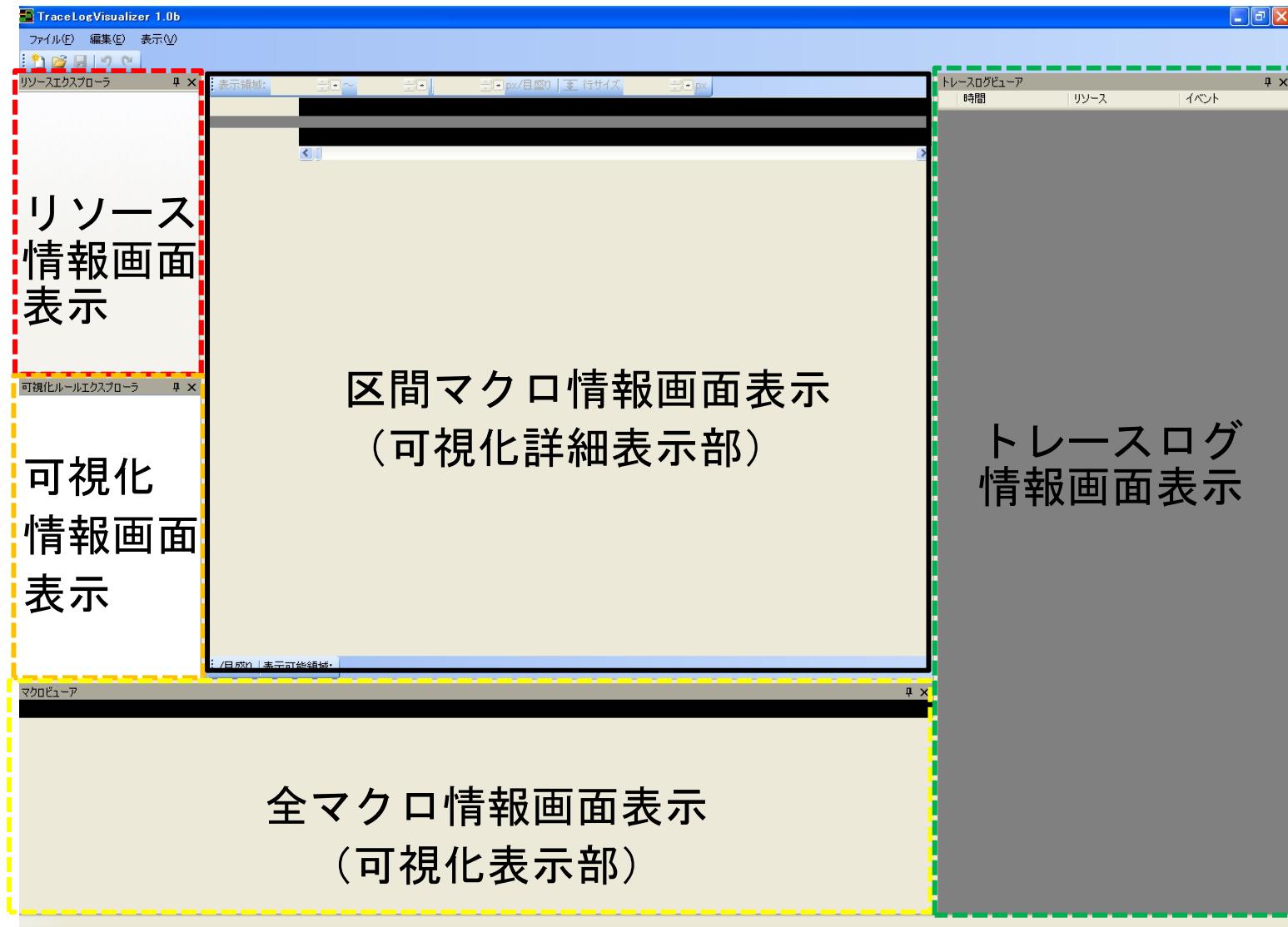


TLVメニュー一覧

- ・ファイル
 - ・新規作成—新しいログファイルをオープン
 - ・開く—既存のログファイルをオープン(xxx.tlv)
- ・編集
- ・表示
 - ・トレースログビュアー — トレースログ画面表示
 - ・リソースエクスプローラ — リソース情報画面表示
 - ・可視化ルールエクスプローラー 可視化情報画面表示
 - ・マクロビュアー(可視化表示部) — 全マクロ画面表示
 - ・可視化詳細表示部 — 区間マクロ情報画面表示

TLV実行

TLV初期画面



ログファイルオープン

- ・TLV1.0rcログファイルオープンには、二つの方法がある。

1. 新規作成

kernel.res、xxx.log ファイルが必要。

「メニュー」→「ファイル」→「新規作成」を
クリック

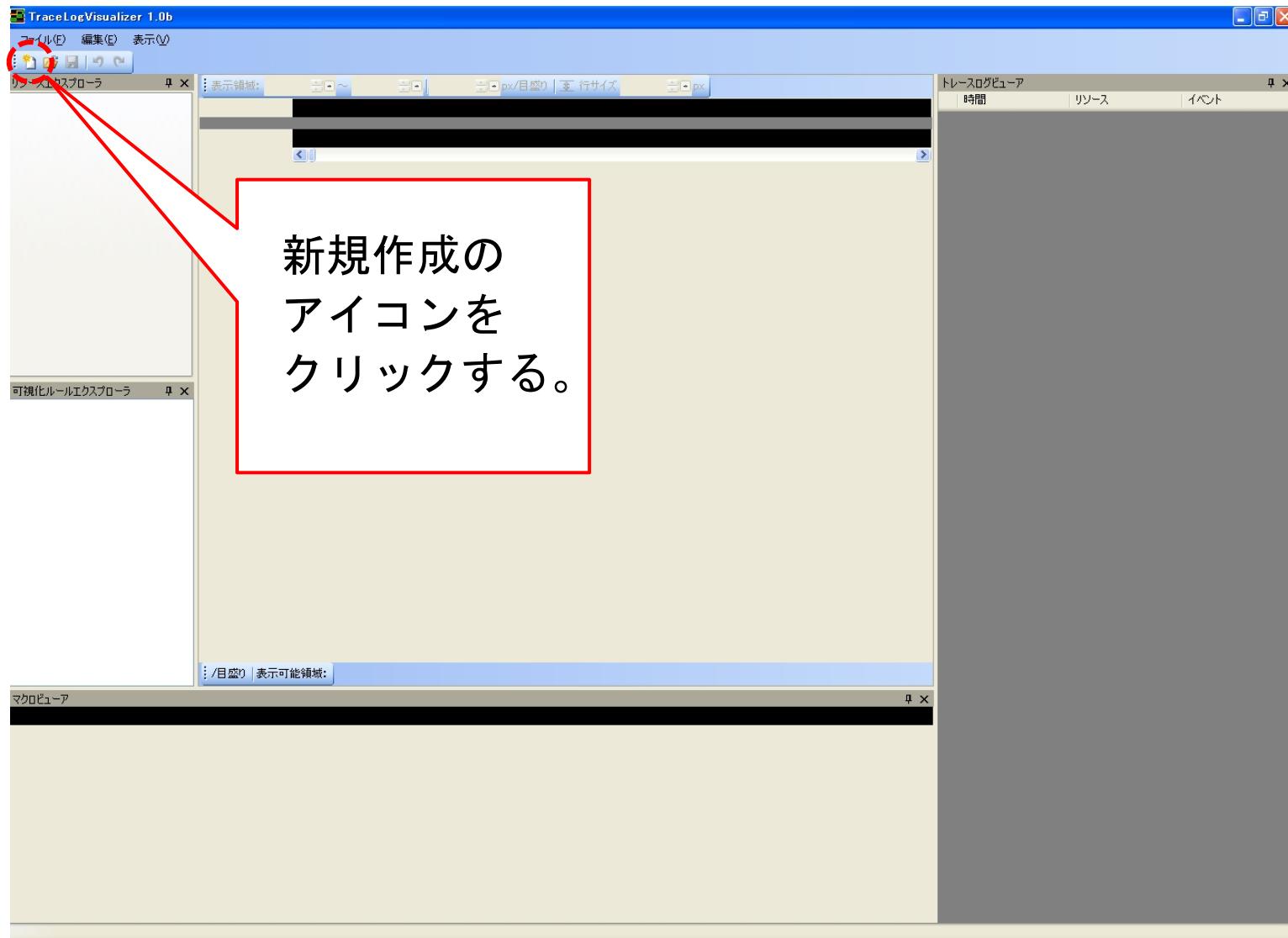
2. 開く（保存したものを開く）

xxx.tlv ファイルが必要。

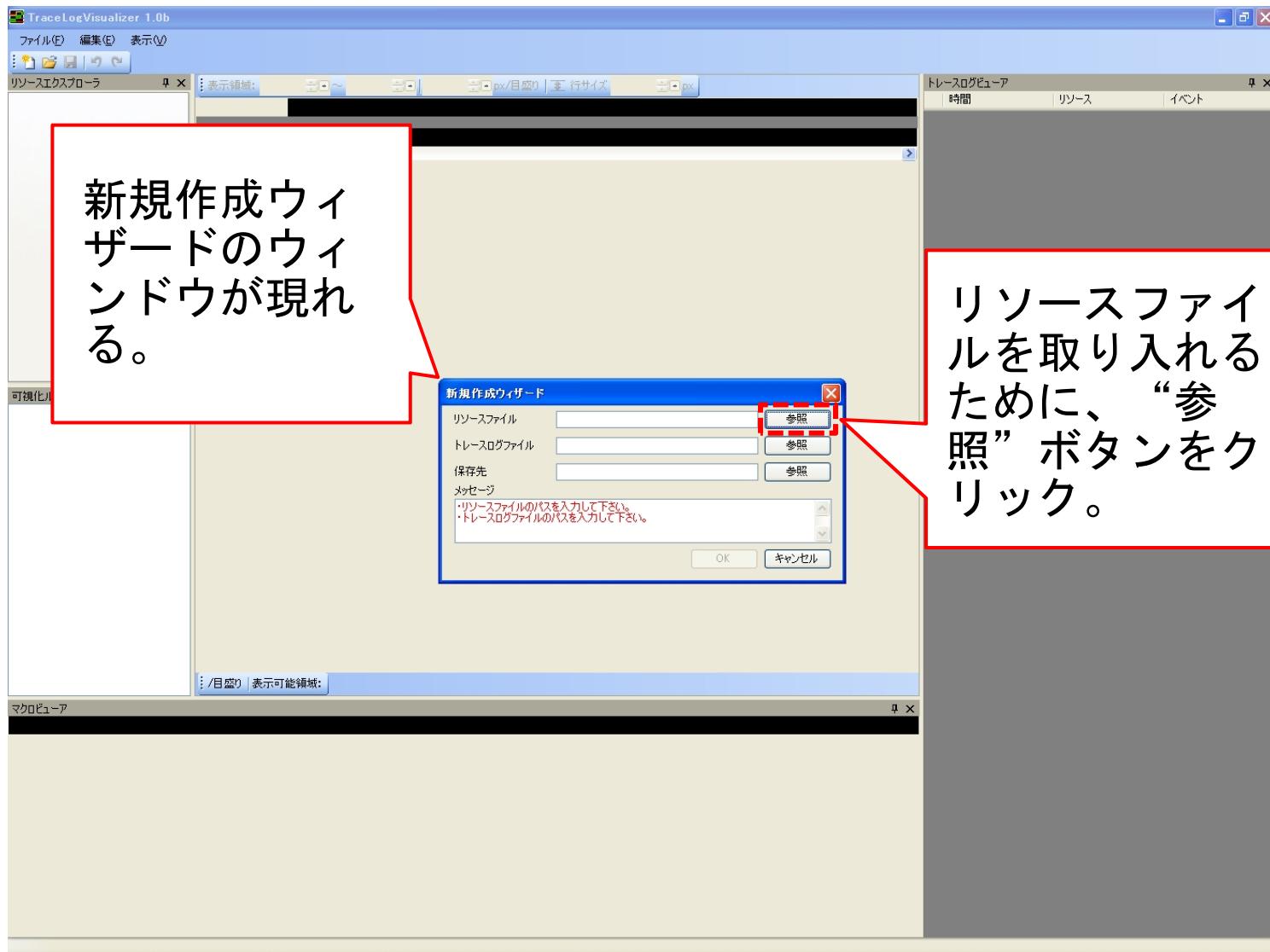
「メニュー」→「ファイル」→「開く」をクリック

1. 新規作成 - スタート

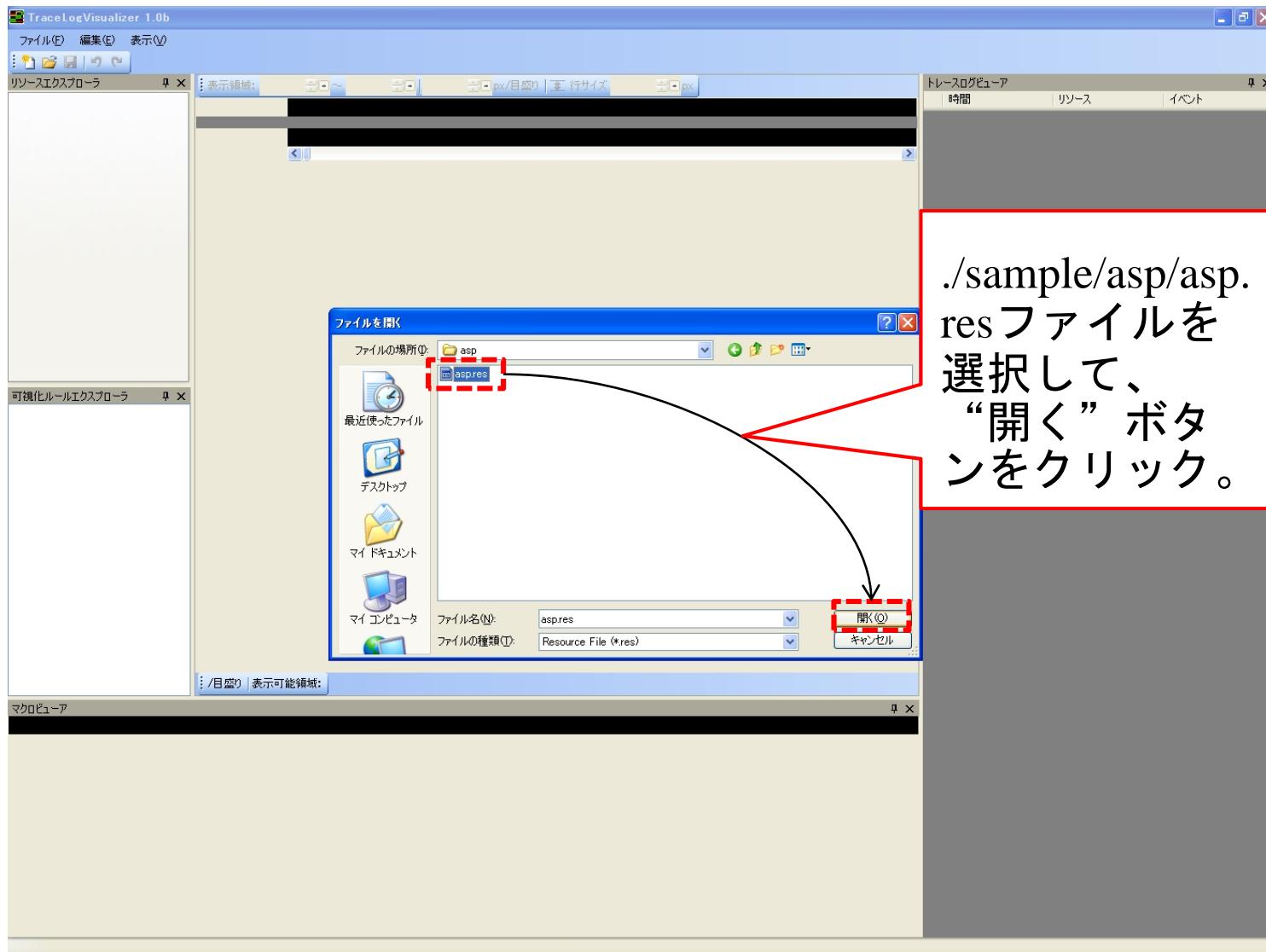
TLV初期画面



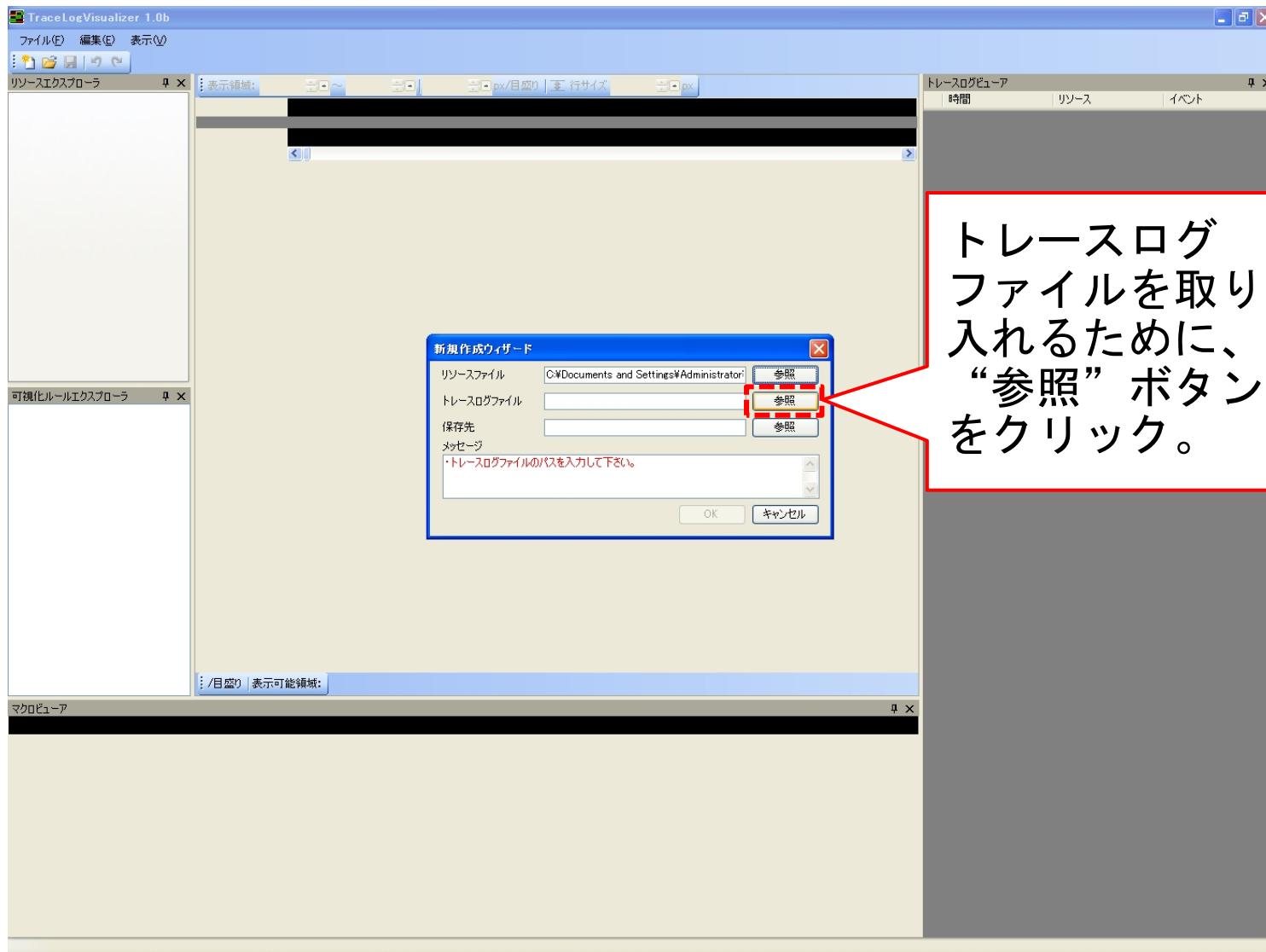
新規作成 — リソースファイルの参照



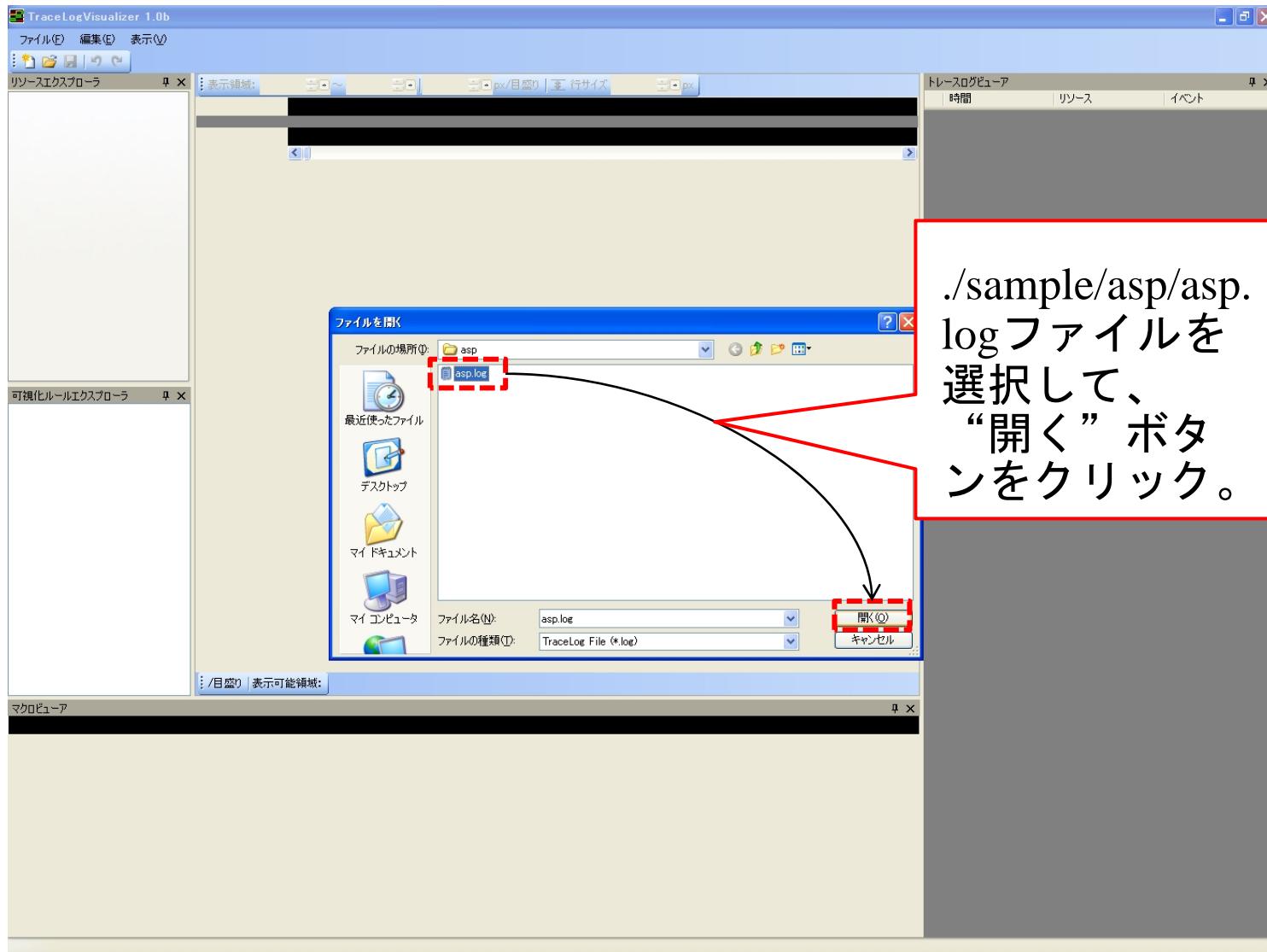
新規作成 – リソースファイルの参照



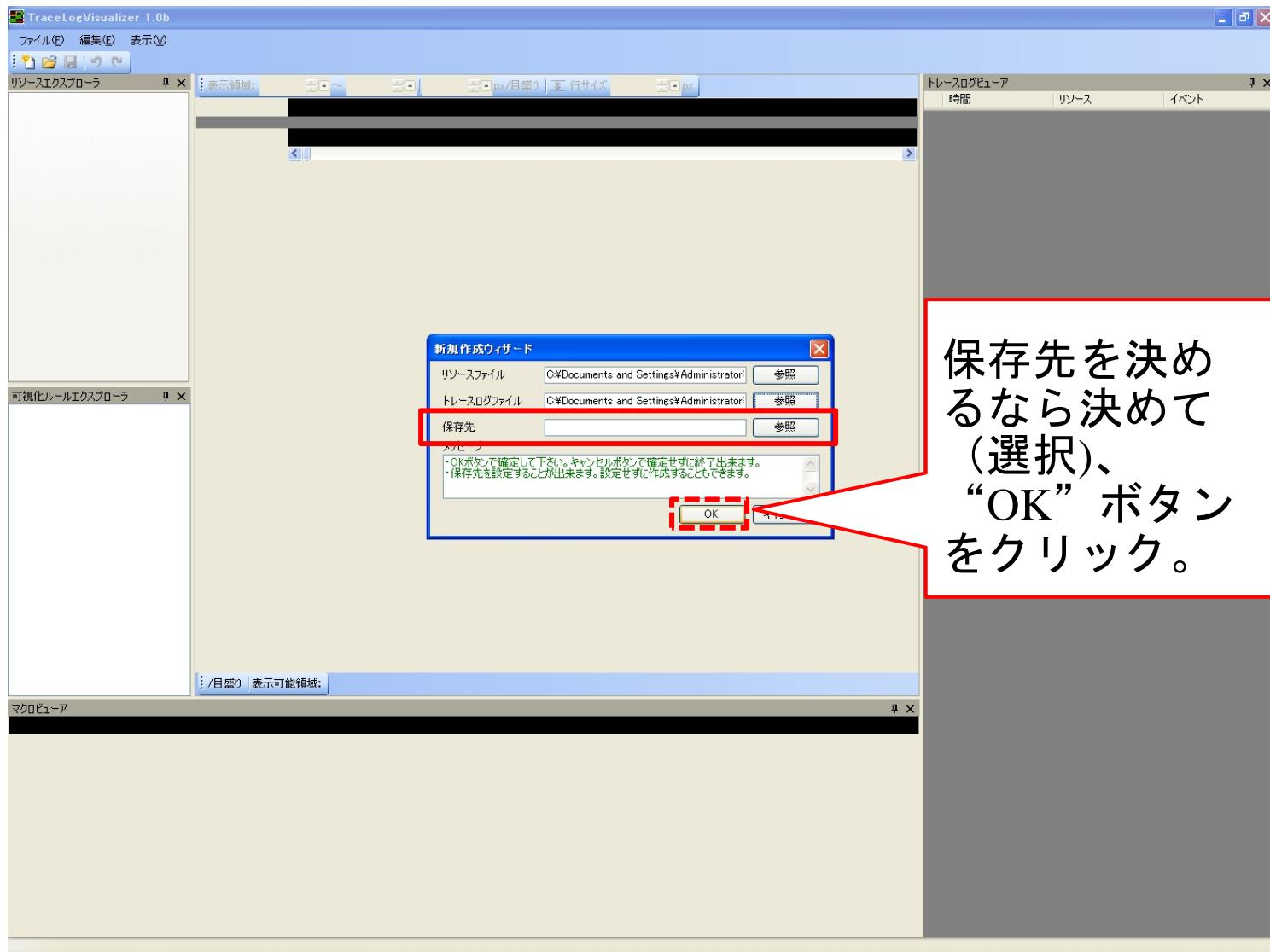
新規作成 – トレースログファイルの参照



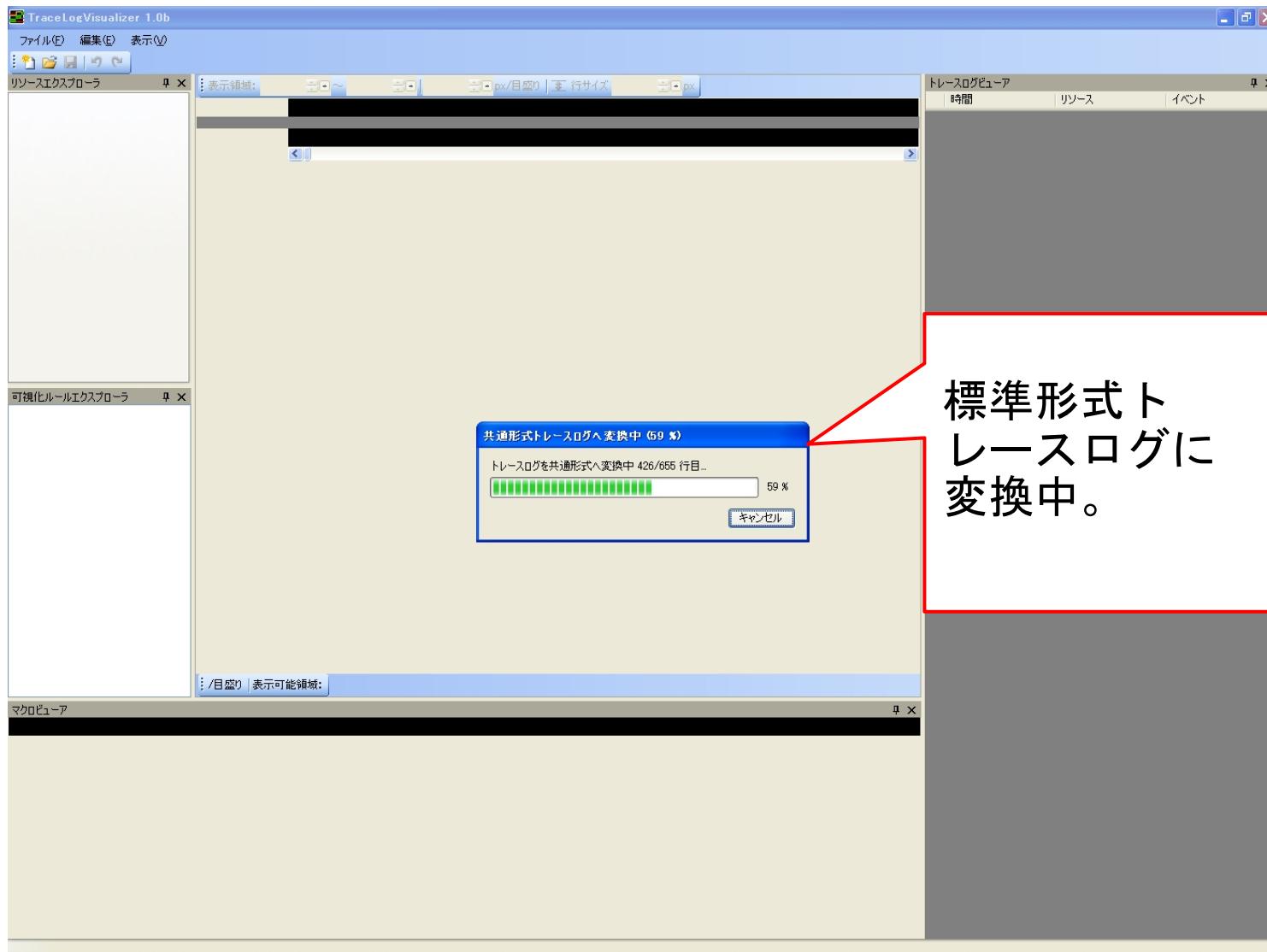
新規作成 – トレースログファイルの参照



新規作成 — 保存先の設定



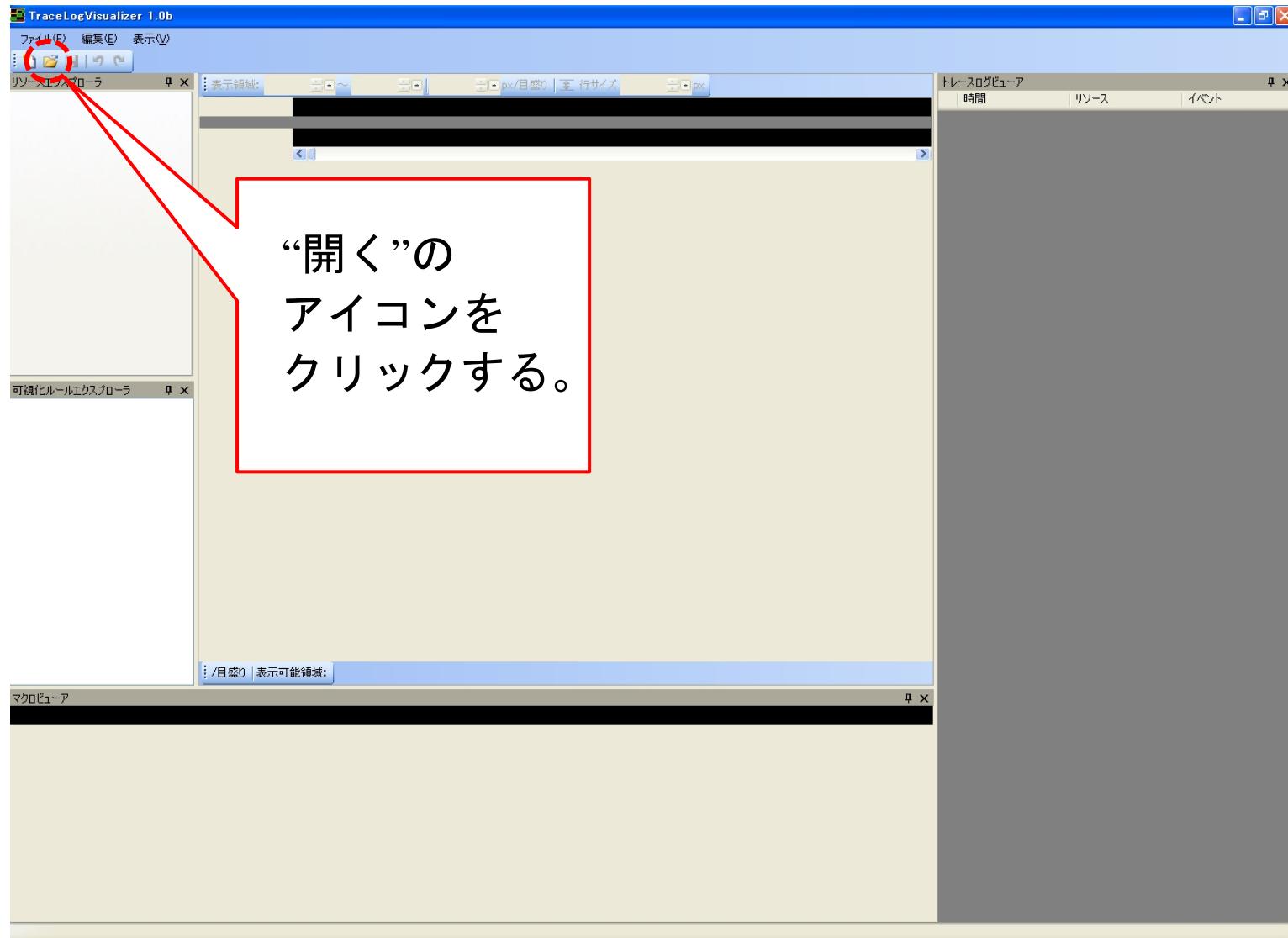
新規作成－標準形式トレースログに変換



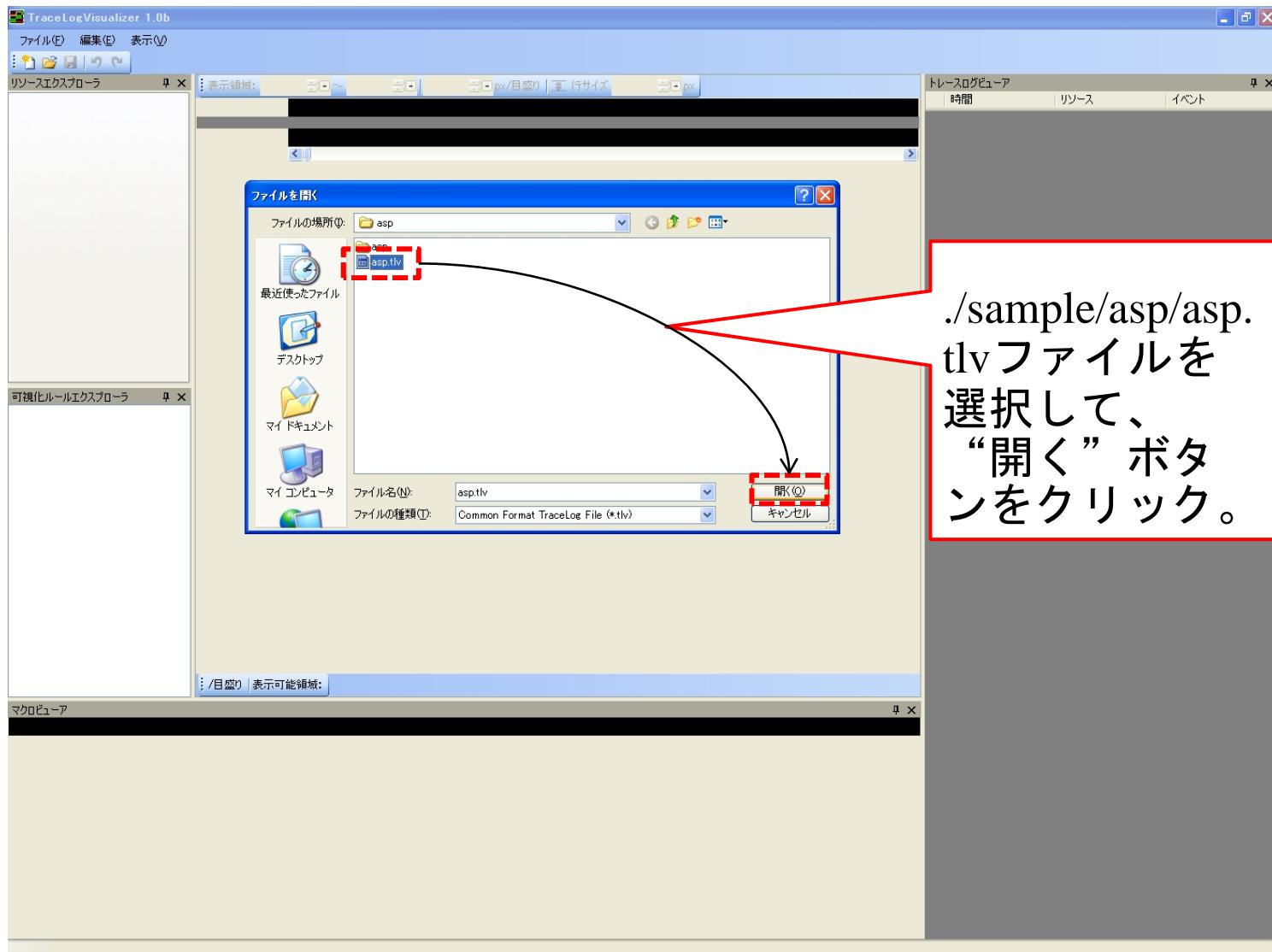
ログファイルオープン

- ・TLV1.0ログファイルオープンには二つの方法がある。
 1. 新規作成
 - kernel.res、xxx.log ファイルが必要。
 - 「メニュー」→「ファイル」→「新規作成」をクリック
 2. 開く（保存したものを開く）
 - xxx.tlv ファイルが必要。
 - 「メニュー」→「ファイル」→「開く」をクリック
- ・今回は、sampleフォルダに入っているファイルを例に説明する。

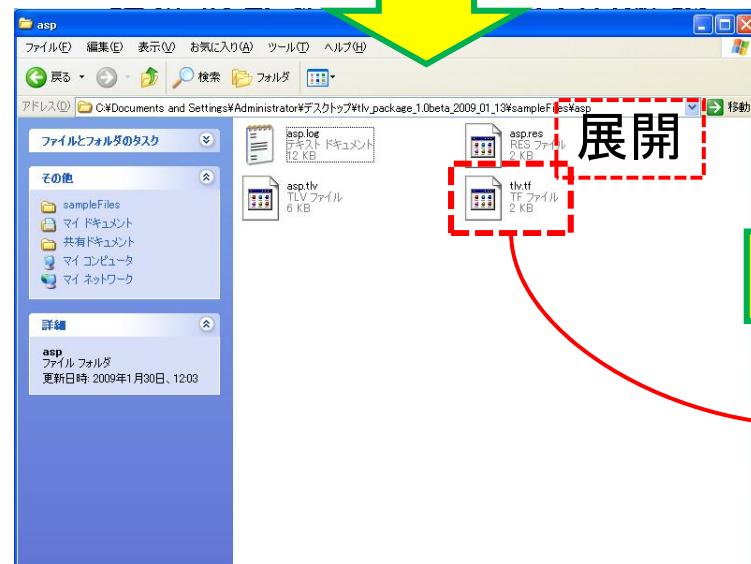
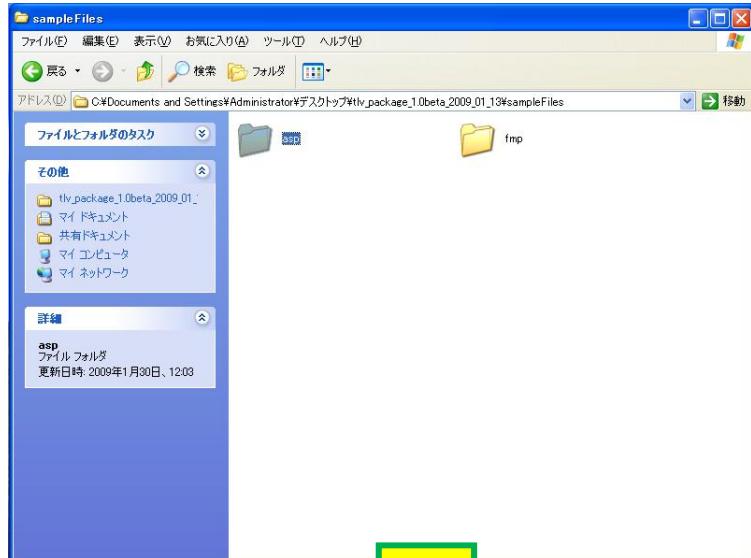
2. 開く(保存したものを開く) TLV初期画面



2. 開く(保存したものを開く)

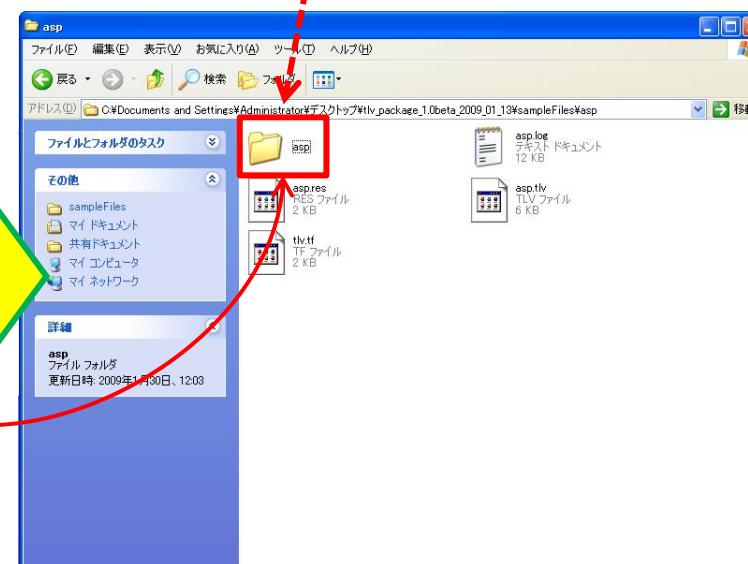


標準形式変換されたログの確認

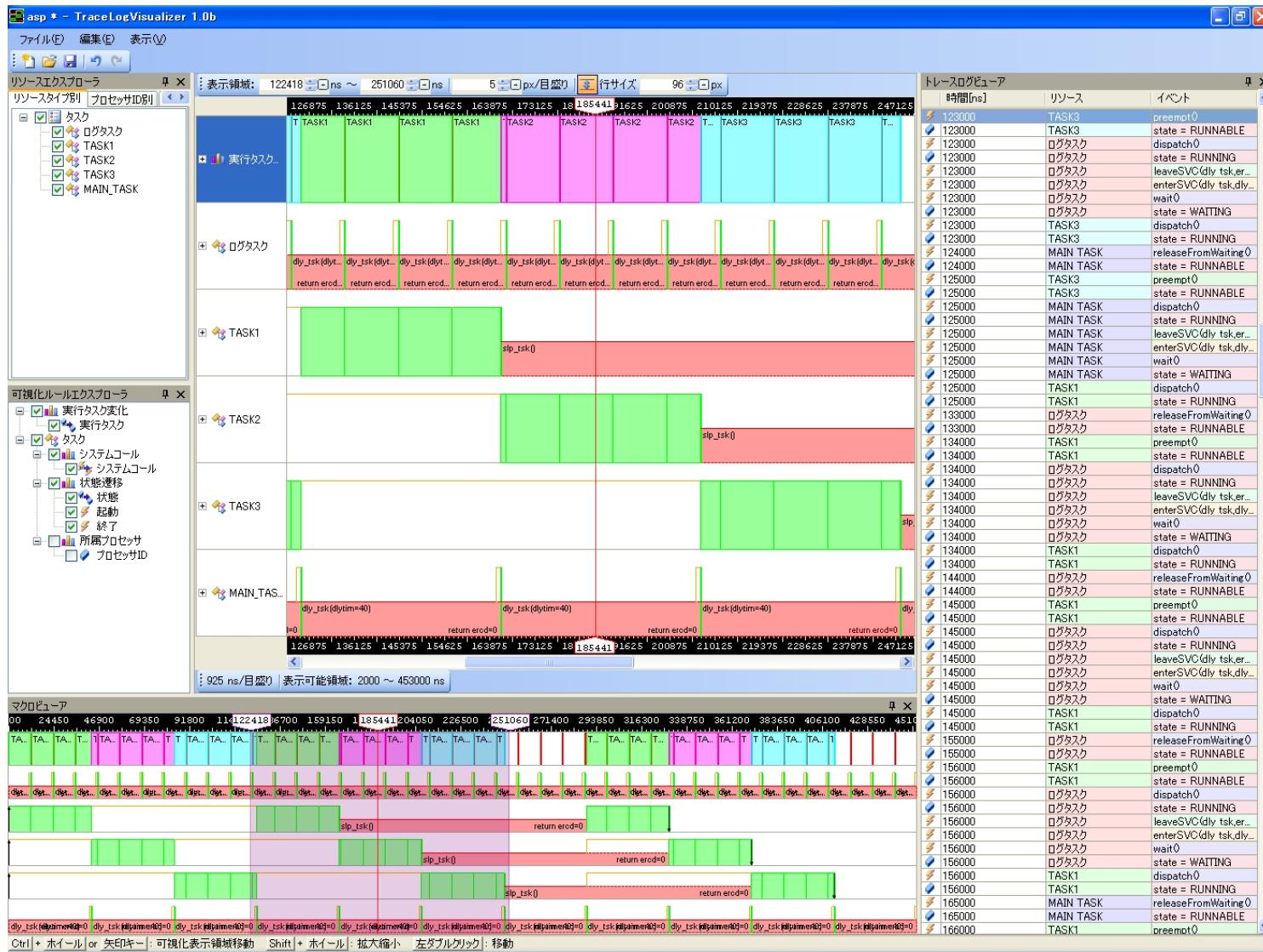


・ 標準形式変換されたログの確認
TLVを実行させ、現在の表示情報を保存すると、asp.tlvが指定したフォルダに新しく作られる。asp.tlvを解凍すると、asp.log、asp.res、asp.viz、asp.settingが出る。このように、解凍することで標準形式に変換されたasp.logを確認することができる。

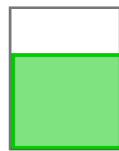
* フォルダを作成しておく。



サンプルファイルを開いている画面



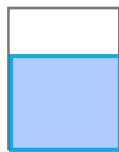
可視化表示部 一 波形表示



実行状態
(タスクコンテキスト)



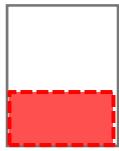
実行可能状態



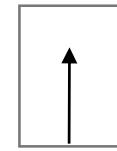
非タスクコンテキスト
(slp_tsk, dly_tsk以外)



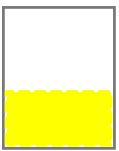
待ち状態



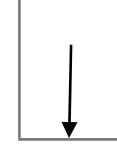
システムコール
(slp_tsk or dly_tsk)



起動



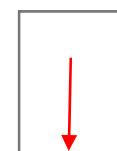
システムコール
(slp_tsk, dly_tsk以外)



終了



休止状態



強制終了

TLVの各情報表示画面

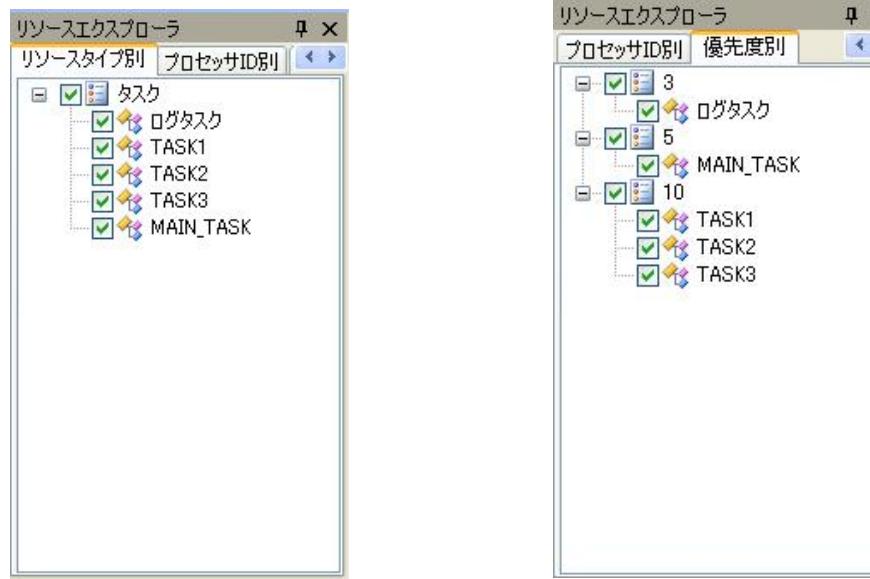


TLVの各情報表示画面

1. リソースエクスプローラ : リソース情報画面表示
2. 可視化ルールエクスプローラ : 可視化情報画面表示
3. トレースログビューア : トレースログ画面表示
4. マクロビューア: マクロ画面表示

リソースエクスプローラ

- ・リソース情報画面表示
- ・タブをクリックして変えることにより、リソースタイプ別、優先度別にリソースを見ることができる。
- ・プロセッサIDはFMPの場合だけ表示
 - ・リソースタイプ別
 - ・優先度別



リソースエクスプローラ

- リソース情報画面表示部で表示するタスクのチェックボックスを選択すると可視化表示部へタスク状態が表示される



TLVの各情報表示画面

1. リソースエクスプローラ : リソース情報画面表示
2. 可視化ルールエクスプローラ : 可視化情報画面表示
3. トレースログビューア : トレースログ画面表示
4. マクロビューア: マクロ画面表示

可視化ルールエクスプローラ

- ・可視化情報画面表示



- ・チェックボックスに
チェックされている
属性のみ表示。

TLVの各情報表示画面

1. リソースエクスプローラ : リソース情報画面表示
2. 可視化ルールエクスプローラ : 可視化情報画面表示
3. トレースログビューア : トレースログ画面表示
4. マクロビューア: マクロ画面表示

トレースログビューア

時間[ns]	リソース	イベント
2000	MAIN TASK	leaveSVC(act tsk.er...
2000	MAIN TASK	enterSVC(dly tsk,dly...
2000	MAIN TASK	wait0
2000	MAIN TASK	state = WAITING
2000	TASK1	dispatch0
2000	TASK1	state = RUNNING
2000	TASK1	enterSVC(ena tex.)
12000	ログタスク	releaseFromWaiting0
12000	ログタスク	state = RUNNABLE
13000	TASK1	preempt0
13000	TASK1	state = RUNNABLE
13000	ログタスク	dispatch0
13000	ログタスク	state = RUNNING
13000	ログタスク	leaveSVC(dly tsk.er...
13000	ログタスク	enterSVC(dly tsk,dly...
13000	ログタスク	wait0
13000	ログタスク	state = WAITING
13000	TASK1	dispatch0
13000	TASK1	state = RUNNING
23000	ログタスク	releaseFromWaiting0
23000	ログタスク	state = RUNNABLE
24000	TASK1	preempt0
24000	TASK1	state = RUNNABLE
24000	ログタスク	dispatch0
24000	ログタスク	state = RUNNING
24000	ログタスク	leaveSVC(dly tsk.er...
24000	ログタスク	enterSVC(dly tsk,dly...
24000	ログタスク	wait0
24000	ログタスク	state = WAITING
24000	TASK1	dispatch0
24000	TASK1	state = RUNNING
34000	ログタスク	releaseFromWaiting0
34000	ログタスク	state = RUNNABLE
35000	TASK1	preempt0
35000	TASK1	state = RUNNABLE
35000	ログタスク	dispatch0
35000	ログタスク	state = RUNNING
35000	ログタスク	leaveSVC(dly tsk.er...
35000	ログタスク	enterSVC(dly tsk,dly...
35000	ログタスク	wait0
35000	ログタスク	state = WAITING
35000	TASK1	dispatch0
35000	TASK1	state = RUNNING
42000	MAIN TASK	releaseFromWaiting0
42000	MAIN TASK	state = RUNNABLE
43000	TASK1	preempt0
43000	TASK1	state = RUNNABLE
43000	MAIN TASK	dispatch0
43000	MAIN TASK	state = RUNNING
43000	MAIN TASK	leaveSVC(dly tsk.er...
43000	MAIN TASK	enterSVC(dly tsk,dly...
43000	MAIN TASK	wait0
43000	MAIN TASK	state = WAITING
43000	TASK2	dispatch0
43000	TASK2	state = RUNNING
43000	TASK2	enterSVC(ena tex.)
45000	ログタスク	releaseFromWaiting0
45000	ログタスク	state = RUNNABLE
46000	TASK2	preempt0
46000	TASK2	state = RUNNABLE
46000	ログタスク	dispatch0

- ・トレースログ画面表示
- ・ソート
- 時間、リソース、イベントなどのタイトル部分をクリックするとソート可能。
- ・左ダブルクリックで、クリックしたところにマーカが移動。

トレースログビューア

マウスをトレースログビューアーの上に持っていくと、TLVの下段に使用可能な操作が表示される。

Ctrl+ホイールで、
文字サイズ変更可
能。

Ctrl+cで、クリップ
ボードへコピー可
能。

右クリック
すると
メニューが出る。

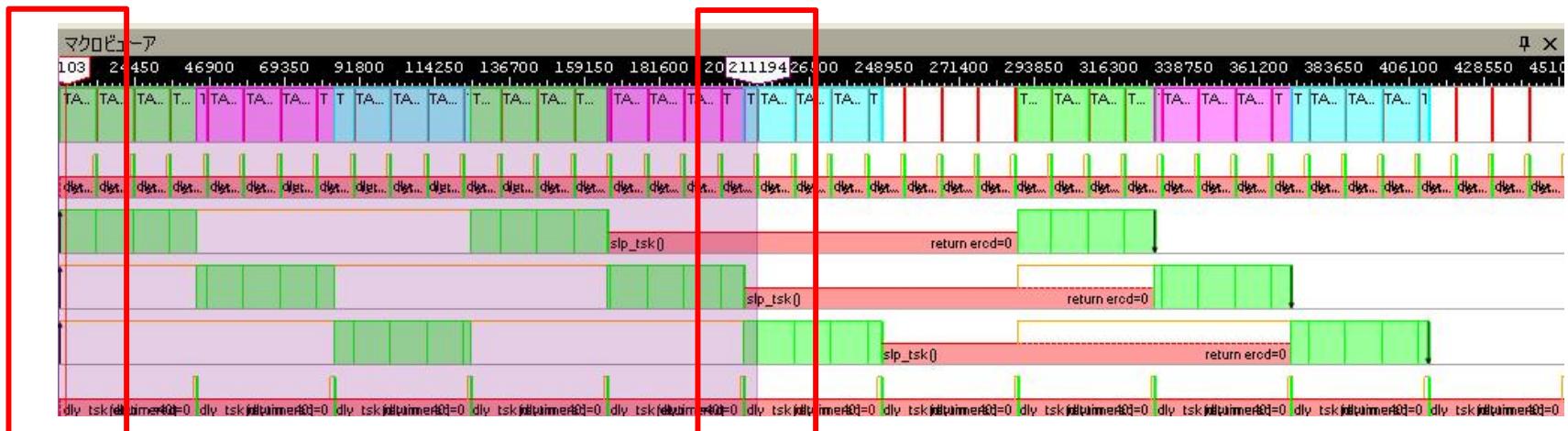
TLVの各情報表示画面

1. リソースエクスプローラ : リソース情報画面表示
2. 可視化ルールエクスプローラ : 可視化情報画面表示
3. トレースログビュアー : トレースログ画面表示
4. マクロビューア: マクロ画面表示

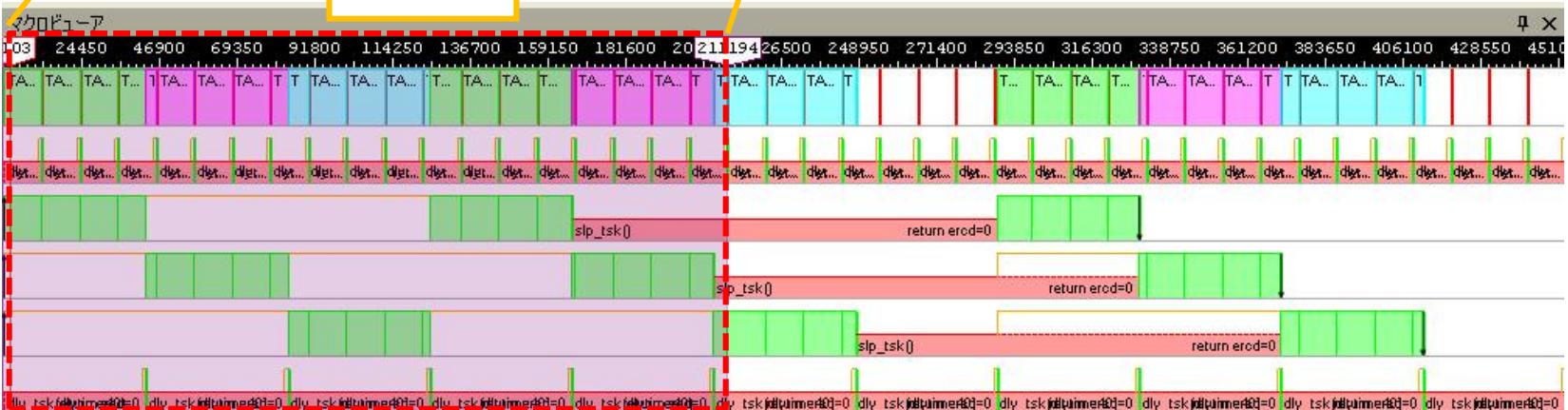
マクロビューアー

- ・全マクロ画面表示

- ・マウスでマーカを設定することにより、その部分の詳細情報が次のページに出てくる、可視化詳細表示部に表示される。

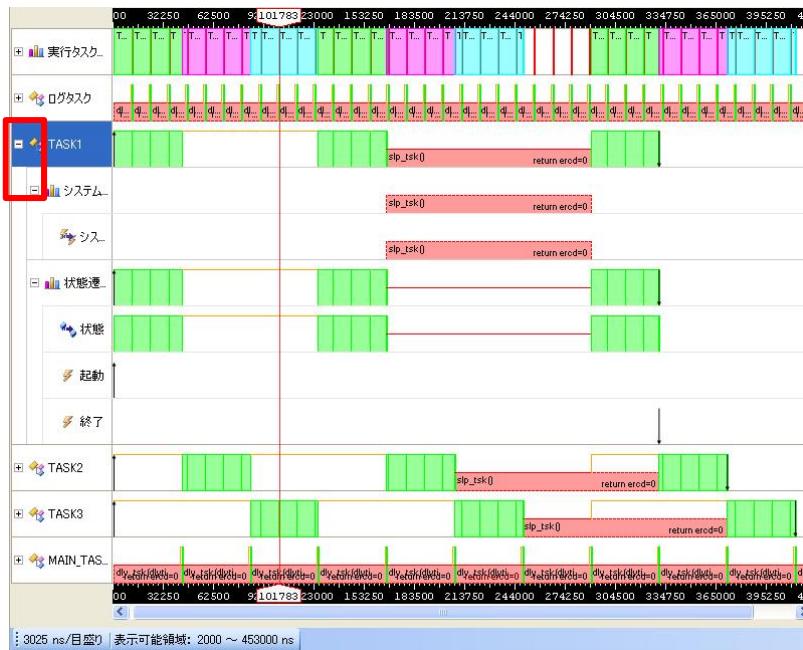


マクロビューアー - 可視化詳細表示部



- ・区間マクロ情報画面表示
- ・前のマクロビューアーで、マウスでマーカを設定することにより、その部分の詳細情報が拡大されて表示される。

マクロビューアー — 可視化詳細表示部

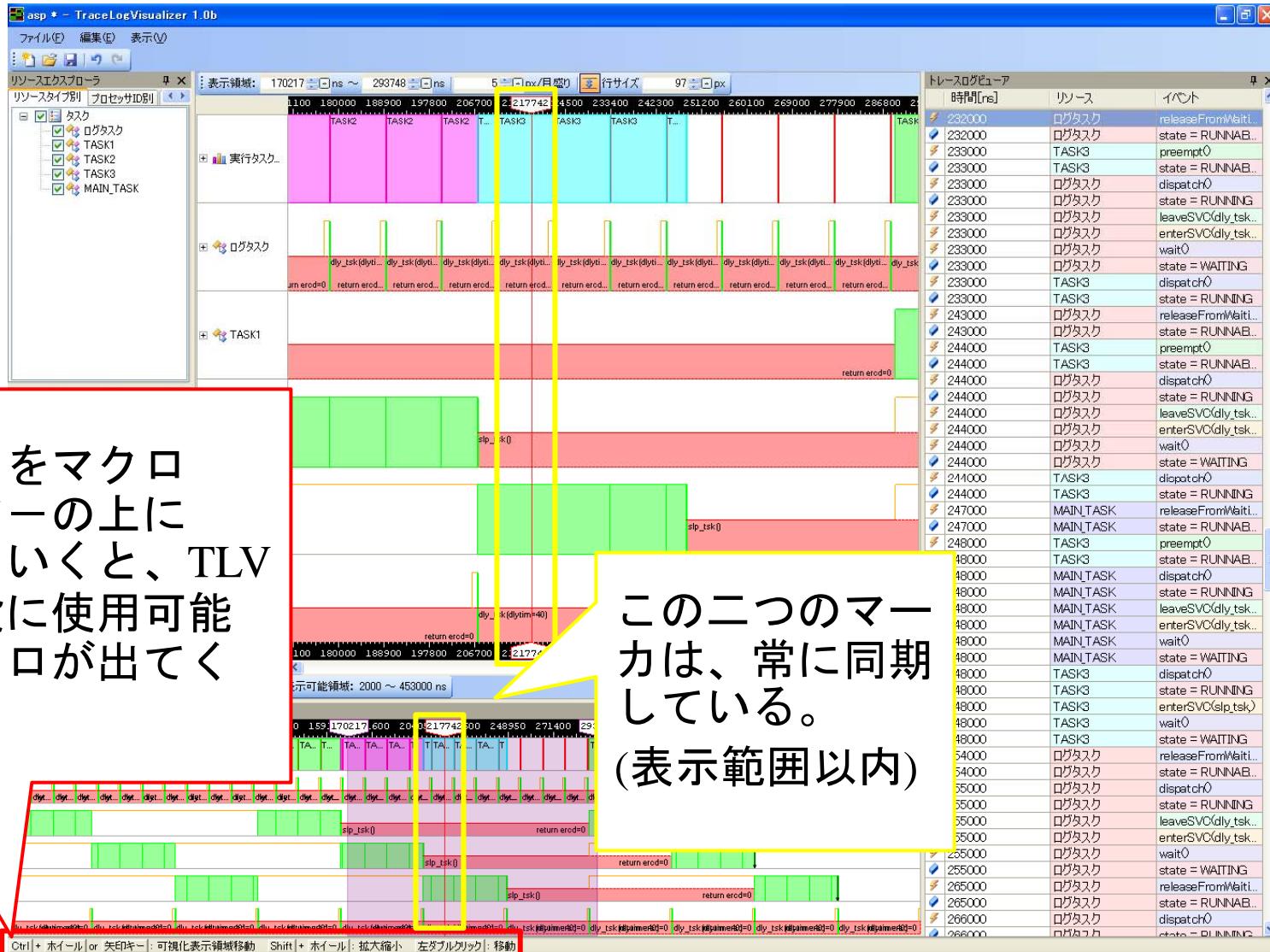


- ・区間マクロ情報画面表示

- ・リソースのタブを開くことによって、詳細項目ごとの振舞いを見ることができる。

- ・Ctrl+ホイール(矢印キー) : 可視化表示領域移動
- ・Shift+ホイール : 拡大縮小
- ・左ダブルクリック : 移動

マクロビューアー



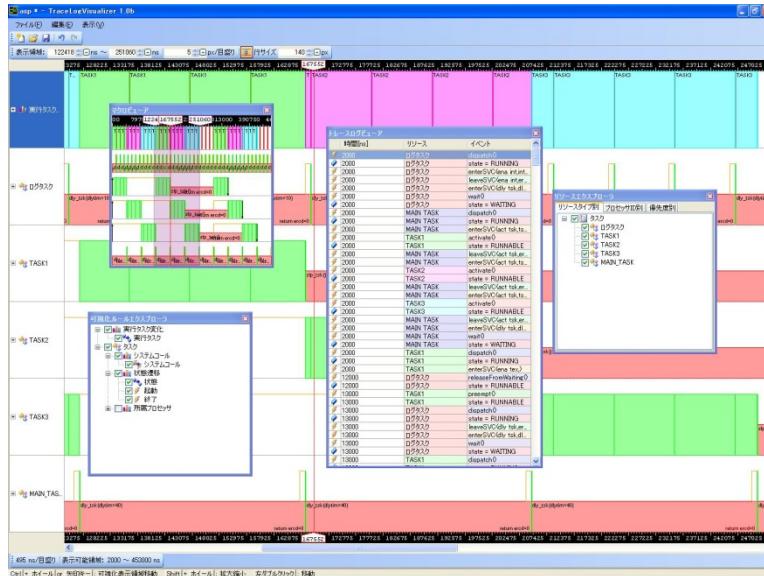
その他の機能

- ・各画面位置移動、表示、非表示
- ・ツールバー

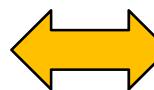
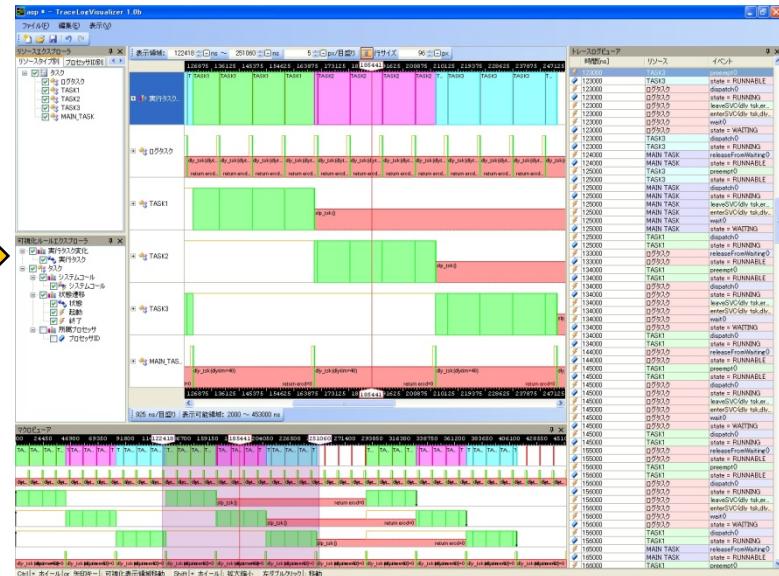
その他—各画面位置移動、表示、非表示

- ・可視化情報、リソース情報、トレースログ画面、マクロビューアのみ可能。
- ・表示は「メニュー」の「表示」でクリック。
- ・位置移動は各画面をドラッグ＆ドロップで移動。
- ・windowbarをダブルクリックすると、元の位置に戻る

位置を移動した画面



元の位置に移動した画面



その他 — ツールバー

表示領域: 145000 ~ 195285 行サイズ: 5 px/目盛り 行サイズ: 108 px

* ツールバーの左から順に

- ns/目盛の拡大、縮小
 - +、-ボタンでns/目盛を拡大、縮小可能
 - 現在のns/目盛表示部分をクリックするとトラックバー(スライダー)で変更可能
- pixel/目盛の拡大、縮小
 - +、-ボタンでpixel/目盛を拡大、縮小可能
 - 現在のpixel/目盛表示部分をクリックするとトラックバー(スライダー)で変更可能
- 行サイズ固定
 - タスク状態表示部をウィンドウズに合わせて行サイズ固定

